

コロナ禍の中、ハイク旅の整理中ですが「ヒマラヤ山麓ハイク」に続いて、思い出深いのは 10 年前の 2010 年 10 月の 1 泊 2 日のクラブツーリズム・登山中級の苗場山 2145m 登山。

同時に本の整理もする内に 14 歳で苗場山が初登山と言う「谷川岳ヒゲの大将・高波呉策」を再読。谷川岳の越後側山麓の土樽に 30 年住み遭難救助、新道開発等に大きな役割を果たし還暦で急逝した高波呉策の遺作。その中に“山に逝く人、生きる人”“リーダー失格の巻”等の参考になる本音の記事も多々あり。

所で本題は上記登山で寝起きに脚が釣り下山時に助けられ無事帰還した事。助けてくれたのは息子の登山ガイド高波隆男さんと知る。風邪で体調不良の中、70 才前の若気の至り？で無理を押し参加。40 人が小型バス 2 台に分乗は窮屈できつかった。歩き始めて汗かきもひどく何時もより難渋。池塘湿原の草紅葉は最高で気持ちが癒されたが疲労状態での頂上山小屋の雑魚寝は体に応えた。

結果として頂上山小屋で朝起きて人を跨ぎながらトイレに行く際に脚が釣り、一時は救急ヘリを依頼したがその程度では援けない、山小屋で休養せよ！と。そこで高波隆男ガイドの指導でストレッチで何とか動ける様になり、脚にテーピングし、万が一動けなくなったら自分が背負って下りるから大丈夫、と。朝飯抜きで握り飯を作って貰い途中 1 ケのみ食べた。その間下山は高波隆男親子ガイド（プロは登山靴でなく無論厚い靴下を履いてゴム長靴なのにはビックリ）に荷物を持って貰い一緒にマイペースで Top を歩かせて貰い、4 時間で何とか小赤沢温泉に無事到着。

温泉で脚をゆっくり揉んでビールを飲み何とか正常に近く復帰出来たのは幸いであった。ガイド、同行者に感謝、感謝の登山でした。写真は山頂の池塘群。その後バスにて秋山郷の紅葉も鑑賞して帰宅。

